

薩摩川内市電子図書館の取組について

薩摩川内市立中央図書館館長 寺田和一

1 薩摩川内市立図書館の概要

「平成の大合併」の県内で、平成16年10月12日に薩摩川内市が誕生し、図書館も中央図書館と樋脇、入来、東郷、祁答院、里、上甕、下甕、鹿島の各分館体制となり、各館が相互に連携し市民の読書活動の推進を図っている。

- (1) 蔵書数 283,670冊（令和6年4月1日現在）
- (2) 来館者数 85,886人（令和5年度実績）

2 電子図書館について

(1) 導入の経緯

- ① 新型コロナウイルス感染拡大による令和2年4月の緊急事態宣言により、市民の外出自粛が長期化し、図書館も臨時休館せざるを得ない状況となる。
- ② そのような中、図書館への来館を必要としない、パソコンやスマートフォン等を利用して読書を楽しむことができる電子図書館サービスが注目された。
- ③ 当市においても、新型コロナウイルス感染拡大により、十分な図書館サービスが市民に提供できないという状況を考慮し、協議を重ねた結果、国の「新型コロナウイルス感染症対策等地方創生臨時交付金」を活用し環境を整備し、令和4年6月1日に「薩摩川内市電子図書館」の運用を開始した。（県内の公立図書館では鹿児島市に続く2番目の導入）

(2) 導入のメリット・デメリット

① メリット

- ア 保管スペースを必要としない。
- イ 来館することなく、24時間いつでもどこでもパソコンやスマートフォン等で本を借りて読むことができる。
- ウ 身体的理由等で図書館への来館が難しい人や、仕事や子育てで忙しい人などにも気軽に利用いただける。
- エ 文字・画像の拡大や音声読み上げ機能等に対応しており、視覚障害のある人等にメリットが大きい。
- オ 返却期限を迎えると、自動的に返却され、紛失・未返却や汚破損の心配がない。

② デメリット

- ア 全ての書籍や資料が電子化されている訳ではないため、貸出・閲覧できる書籍等の数が限定されている。
- イ 紙書籍と比べると、購入費用が高い。（平均2～3倍）
- ウ 人気作家の本は、期限付き（2年間又は52回の貸出し）のものが多い。

エ ネット環境や、読むための端末（スマホ、パソコン等）が必要となる。

オ 相互貸借はできない。

(3) 利用方法

- ① 図書館利用者カードで利用することができる。
- ② 電子図書館のサイトにアクセスし、ID（図書館利用者カードの番号）とパスワードを入力、ログインし借りる。（閲覧含む）
- ③ 貸出点数は1人2点まで。貸出期間は14日間。
※ 貸出期間を過ぎると、自動的に返却
- ④ 予約点数は1人2点まで
※ 取置期間（5日間）を過ぎると自動的にキャンセル

(4) 電子書籍コンテンツ数

（令和6年4月1日現在 読み放題パック含む）

- | | | |
|---|-------|--------------|
| ① | 一 般 | 1, 794 コンテンツ |
| ② | 児 童 | 1, 067 コンテンツ |
| ③ | 動画・音声 | 115 コンテンツ |
| 計 | | 2, 976 コンテンツ |

(5) 寄附による電子書籍の整備

- ① 九州第一ライオンズクラブ友好会様の寄附により、「九州第一ライオンズクラブ友好会文庫」を令和4年12月24日に開始。
- ② 株式会社永留電気工業様の寄附により、「永留電気工業文庫」を令和5年7月7日に開始。

(6) 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度									
利用者 ログイン 回数	令和4年度			1,535	1,028	833	588	553	536	444	501	1,787	1,184	8,989	899
	令和5年度	666	861	696	1,088	521	750	819	703	712	599	648	789	8,852	738
	令和6年度	624	611	564	1,077	667	642							4,185	698
コンテンツ 閲覧回数	令和4年度			1,755	1,246	911	712	506	510	409	503	2,805	2,721	12,078	1,208
	令和5年度	1,942	2,365	2,461	2,487	2,354	2,931	2,834	2,853	2,781	2,742	3,144	3,342	32,236	2,686
	令和6年度	3,414	3,413	3,564	3,763	3,671	3,478							21,303	3,551
貸出回数	令和4年度			1,219	1,177	755	1,171	1,412	1,523	1,624	1,848	2,504	2,434	15,667	1,567
	令和5年度	1,959	2,168	2,193	2,199	2,018	2,523	2,475	2,519	2,448	2,387	2,484	2,459	27,832	2,319
	令和6年度	2,463	2,384	2,438	2,521	2,523	2,494							14,823	2,471

(7) 今後に向けて

- ① 貸出・返却の手間のかからない電子図書館には、一定のニーズがあり、スマホやパソコン、タブレットの利用環境の充実とともに、今後も貸出数は増加していくことが予想される。
- ② 本市としては、広報活動を継続するとともに、利用者からの要望に応じた電子書籍の充実を図りたい。
- ③ また、小中学校と連携し、児童生徒が電子図書館という新しいツールで本に触れる機会を増やし、学ぶ意欲の向上につなげていくことを目指したい。
- ④ 紙の書籍と電子書籍のそれぞれの機能的特徴を生かして補完し合い、市民の読書施設としての図書館、情報の拠点施設としての図書館の充実を図りたい。